

## 古墳時代の自転車

Prehistoric [Kofun-period] Bicycle

赤松 正行 (IAMAS)

Masayuki Akamatsu (IAMAS)

キーワード 自転車, 車輪, 歴史, 循環, アート, 立体造形, 野外展示, AR, 3Dスキャン

Keywords Bicycle, Wheel, History, Cycle, Art, Formative, Outdoor, AR, 3D Scan

### 概要

2022年4月から5月にかけて岐阜県内願成寺古墳群にて開催された野外美術展「願成寺古墳群美術展 2022」に立体造形作品《古墳時代の自転車》(2022)を出展した<sup>(1)</sup>。これは現代の自転車が古墳時代にタイム・スリップしたと想定し、当時の人々が自転車をどのように扱ったかを思考実験しながら本展示に合わせて制作したものである。また、この作品は野外の会場に設置して間もなく、原因不明ながら忽然と消えてなくなり、その後にも発見されていない。そこで、本稿では先行作品から当該作品に至る考察とともに、作品の制作から消失と対応までの経緯を報告する。

### 《自転車の車輪》

マルセル・デュシャン (1887~1968) の《自転車の車輪》(*Bicycle Wheel*, 1913) は、自転車の前輪とフォークを逆さまにして白いスツールの上に差し込んだ立体造形物だ。日常品の有り得ない組み合わせによる異化作用とともに、絶妙なバランスと凜とした佇まいに惹かれる。それは工業製品を取り入れたレディメイドであり、キネティック・アートの先駆であり、今日のインタラクティブ・アートにつながる重要作品と言える。もっともデュシャンにとっては気晴らしに作った余興に過ぎず、無造作にアトリエの片隅に置かれたそれは、いつしか消失してしまう。



写真1 Marcel Duchamp, *Bicycle Wheel*, New York, 1951 (third version, after lost original of 1913). The Sidney and Harriet Janis Collection, The Museum of Modern Art. © 2023 Artists Rights Society (ARS), New York / ADAGP, Paris / Estate of Marcel Duchamp

### 《リ・サイクルの車輪》

数年前に放置自転車の調査に立ち会って驚かされた。老朽化した自転車ながら、前輪を軽く回すと煌々とライトが点灯したからだ。環境光センサーが備わり、暗くなると点灯するのも気が利いている。そのような1台を譲り受け《自転車の車輪》に似せた作品を制作した。オリジナルにはないライトを活かすために、スポークに薄片を挟み込む。野外なら風を受けて回転するわけだ。名付けて《リ・サイクルの車輪》(*Re-cycling Wheel*, 2018)。



写真2 赤松正行『リ・サイクルの車輪』(2018)。本文中、特記ない写真はすべて著者による。© Masayuki Akamatsu

廃棄自転車のリサイクルであり、風力発電として再生可能エネルギーで自己発光するからだ。何度か野外展示も行った。

### 願成寺古墳群美術展

IAMASから程近い池田山麓に願成寺西墳之越古墳群がある。周囲は斜面を活かした茶畑であり、森の木々が迫っているものの、大小111基もの古墳が群集しており、発掘や修復、保存が行われている。その貴重な環境に注目し、文化財保護の啓蒙と未来への提言として願成寺古墳群美術展が開催されてきた。関連する展覧会を含めると2008年より毎年開催されており、古墳群での野外展示は全国的にも珍しい。同展を何度か拝見した筆者は、その意義に共感して『リ・サイクルの車輪』の展示を申し込んでいた。しかし新型コロナウイルス感染拡大のために2021年の開催は中止、翌年に延期された。

### 山麓サイクリング

それまでもその後も何度か古墳群地域を自転車で訪れていた。「クリティカル・サイクリング」<sup>(2)</sup>と銘打つ自転車の実践的な研究に加えて、感染予防のために屋外活動が推奨されていたからだ。古墳地帯を抜ける道路は高台にあって眺めが良く、適度なアップ・ダウンとカーブで軽快にサイクリングが楽しめる。そこでふと気がついた。当然のことながら、このような高品質アスファルトの流麗な道路は古墳時代にはない。もちろん自転車もない。それならば、現代の自転車がタイムスリップして古墳時代に出現すると、人々はどのように反応するだろう



写真3 「願成寺古墳群美術展 2019」より43号古墳での作品展示風景 (2019)。

か?そのような思考実験として作品制作を始めた。

### 車輪と自転車

車輪の発明は数千年前に遡り、日本では古墳時代後期(飛鳥時代)の木製車輪が出土している。おそらく牛や人が曳く荷車であり、古墳の造築にも活躍しただろう。一方、自転車は1817年にドイツで発明されており、日本での江戸時代の先駆的な例を含めても、何千年も自転車の発想に至らなかったことになる。古墳時代の人々は車輪を使っている、古墳に突如現れた自転車を理解できないはずだ。上下前後すら定かではない。偶然にサドルに跨ってペダルに足をかけても、すぐに転倒する。幼少期に練習で苦労したように、自転車に乗るのは至難の技だ。自転車に乗る姿を見たことがなければ尚更だろう。

### 古代人と自転車

知人から提供された2台の自転車(いわゆるママチャリ)を前に古代人になったつもりで試行錯誤する。正立させると自立せず不安定であり、ハンドルはすぐに曲がる。大きさの割に荷物は僅かしか乗らないので、荷車としては役不足だ。スタンドを立てるか倒立させると安定するが、車輪が軽やかに回るだけだ。横転させると、ますます何の役にも立たない。ただし、金属のフレームやハンドルは頑丈なので農機具や武器として使えそうだ。カゴやスポークなどの細い金具は串や針になる。しかし自転車は頑丈に作られている。工具なしでは簡単にボルトやナットを外せない。古代人は途方に暮れたに違いない。



写真4 池田山麓の願成寺西墳之越古墳群周辺(2022)



写真5 推定5100～5350年前の木製の車輪と車軸、スロベニアのリュブリャナ南部で出土 © Petar Milošević



写真6 作業前の自転車



写真7 分解した自転車(1台分)

## 自転車の崇拜

鉄器が製造されていた古墳時代とは言え、自転車のように精巧で堅牢な金属物は見たことがないだろう。ベルは高らかに鳴り響き、ライトが夜の闇を切り開く。ステンレスのボディは何年経っても錆びない。その驚異的な有様に畏怖の念を抱き、崇拜の対象となったに違いない。原始自転車教の誕生だ。そこで当初想定した《リ・サイクルの車輪》ではなく、古墳時代にタイムスリップして祭壇に奉られた自転車の制作に取り掛かった。当初は古代人が用いたであろう素朴な石器や鉄器だけを用いていたので、作業は遅々として進まない。アトリエ代わりの研究室前室で単調な打音が鳴り続いていた。

## 古墳時代の自転車

完成した《古墳時代の自転車》(Prehistoric [Kofun-period] Bicycle, 2022) は2つの立体物から成る。ひとつはデュシャンに敬意を表して前輪とフォークを倒立

させる。もうひとつはフレーム2本とフォーク1本に3つの車輪を組み合わせている。すべて2台の自転車から取り出した部品で構成し、眩いばかりに磨き上げている。これを55号古墳の前に設置した。澄み渡る青空に白い雲が浮かび、暖かい陽の光が満ちる。柔らかな風がそよぎ、新緑の草原には黄色い花が咲く。2022年4月16日、美術展開催の1週間前。発掘され復元された古代の遺物は、千数百年前の春の日と同じように輝いていた。

## 作品の消失

作品設置時は十分な時間がなかったので、作品の記録を撮るべく3日後の昼下がりに現地を再訪。そこで我が目を疑わんばかりに驚いた。なんと、作品がない!のだ。55号古墳の前には草木があるだけ。その草を掻き分けると作品の固定具が残っていた。1時間半ほど前に美術展のキュレーターが通りかかって作品を見ているので、白昼の僅かな間に作品が跡形もなく消えたことになる。



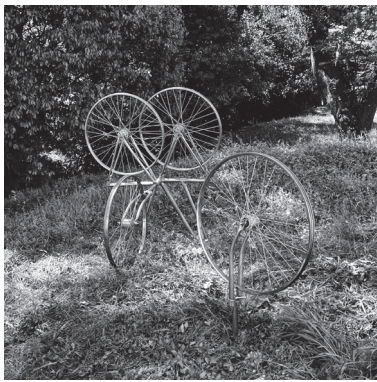


写真8 赤松正行《古墳時代の自転車》(2022)



写真9 《古墳時代の自転車》消失跡の警察による現場検証(2022)

すぐ横の道路脇には定番のグレーチングが並んでいるので、金属窃盗は考えにくい。再び古墳時代にタイム・スリップしたのだろうか。警察の現場検証が行われ、被害届を出したものの、未だに見つかっていない。

### 追憶の自転車

代替として美術展には急遽《リ・サイクルの車輪》(2018)を展示することになった。超常現象または盗難を避けて古墳前ではなく、主催者のギャラリーの庭に設置する。2021年ならこの作品を展示していただけに、1年間の時間も消失したかのようだ。また、僅かに撮影していた《古墳時代の自転車》の写真も展示する。粗い形状ながらiPhoneのLiDARで計測した作品の3Dモデルもあった。それを古墳前でARビューに出現させてみる。

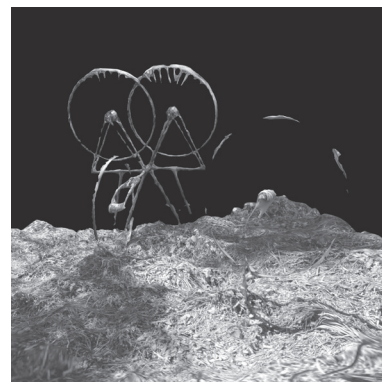


写真10 3Dスキャンした《古墳時代の自転車》の3Dモデル(2022)

これは技術的には拡張現実だろうが、現実感は希薄で幻に思える。ただ、自転車を分解して塗装を剥がし、組み替えて磨き上げた、その感触だけはたしかに残っている。

### 編注

- \*1 「願成寺古墳群美術展 2022」2022/4/23～5/29は、岐阜県揖斐郡池田町にある願成寺古墳群にて、沖縄や台湾から総勢20名が参加し、レクチャー、銅鏡ワークショップ、交流会など様々なイベントが開催された。美濃国池田山、美濃国池田山麓物語実行委員会, 2022, April 23 - May 29 <https://scrapbox.io/ganjoji/>
- \*2 クリティカル・サイクリング (Critical Cycling) はIAMASメンバーを中心に2016年4月より、サイクリングを楽しむ、その批評性を探求する任意グループ。グループ・ライドから調査研究、そして本サイトの運営まで幅広く自転車に関する活動を行う。クリティカル・サイクリング, 2019 <https://criticalcycling.com/about/>